

1 単元名 チャレンジ！テニピンへの道！

2 単元の目標

- (1) テニピンにつながる易しいゲームを通して、ボールのコースに入る感覚や用具で返球する動きを身につけることができる。
- (2) ボールのコースに入ることや用具で返球することについて、考えたことを友だちに伝えたり、友だちからの気づきを自分の動きに生かしたりすることができる。
- (3) 友だちと協力しながら、進んで準備・片づけをしたり、運動に取り組んだりすることができる。

3 基盤 4 単元計画 (全 8 時間)

次	時	学習の目標 (○) と学習活動 (・)	知	思	学
1	1	○テニピンに出会うと共に「なりたい姿」について考えることができる。			○
	2	○得点に結びつきやすい返球について考えることができる。	○	○	
2	3	○返球した後の動きについて自分に合った方法を考えることができる。		○	
	4	○ボールのコースに入ることの良さについて考えることができる。	○	○	
	5	○キャッチテニピンを通して、相手コートにボールを投げ入れたり、飛んできたボールのコースに素早く体を動かしたりすることができる。	○		○
3	6	○ねらったところにボールを返球することができる。	○		
	7	○ボールコースに入る感覚や用具で返球する動きをもとにゲームをすることができる。	○		○
	8				

## 5 授業の実際

### ■視点①

○児童のなりたい姿や中学年のつながりを意識した、低学年での単元構成の工夫

・できるようにしたいこと（なりたい姿）を共有し、課題を設定する。

・スモールステップの単元構成で身に付けたい力を焦点化し、反復することで感覚や動きを高める。

・ゲーム中心の授業構成をし、ゲーム間にアドバイスタイムの設定することで「できた喜び」を自覚できるようにする。



○「できそう」「できた」が連続するための用具や場、ルール等工夫

・児童の実態を踏まえ、2バウンドまでを認め、ゲームを時間制することや、ネットを低くするなどのルールを工夫する。



の工  
とす

### ■視点②

○「テニピン」につながる基礎感覚・基礎技能を養う運動例の追求

・「ボール操作」「ねらったところに打つ」「ラリー」「入れ替わる」の4つに視点をしぼったスキルアップタイムを単元の帯活動として取り入れる。

・休憩時間でのテニピンラケットやボールを使った遊びを認める。



### ■視点③

○自ら話し合い、考えを伝え合うための手立ての工夫や課題設定の工夫

・児童のできることになりたいたいこと（なりたい姿）からめあてや問いを作るようにする。

・児童から出た言葉を大切にし、動きや感覚について、学級の共通言語をその都度創る。

・アドバイスタイムを設け、きょうだいチームのよい動きや、よりよくできることを伝え合えるようにする。

・見合う視点が明確となるよう、ワークシートを配布する。

・タブレットを活用し、ゲーム中に見合うポイントを焦点化する。



## 6 成果と課題

○スキルアップタイムを帯の活動を取り入れることによって、児童がテニピンにおける基礎的な動きを身につけることにつながった。

○タブレットで課題を解決する姿を見せることで、動きのポイントを焦点化することができた。

○スモールステップでの単元構成は、児童の技能を段階的に高めていくのによい。

●場の設定の工夫に改善の余地がある。コート広さ、ネットの高さなどは学年やゲームのルールに応じて変えていく必要がある。

●4つの視点は、低学年児童にとっては多かった。中学年でのテニピン実践に向けて、低学年の段階での視点を絞り授業を構成する。

●「ゲームを中心とした」単元構成の中では、ポイント制を続けた方が良かった。